

令和4年産 米集荷経過報告

1等米比率 73.1%

(令和4年10月14日現在)

1. 検査概況 (カントリーエレベーター集荷分は含まれておりません)

単位：俵 (60kg)

種類	1等	2等	3等	規格外	合計
魚沼産コシヒカリ	42,036.0	11,790.5	381.5	94.0	54,306.5
一般地区コシヒカリ	21.0	0.0	0.0	0.0	21.0
こしいぶき	694.0	2,175.0	267.0	0.0	3,136.0
その他うるち	919.5	369.0	12.0	0.0	1,300.5
もち米	647.5	1,238.5	92.0	43.5	2,021.5
酒米	1,444.0	480.0	143.5	0.0	2,067.5
輸出用米	5,120.5	1,317.5	294.0	0.0	6,732.0
加工用米	0.0	15.0	0.0	0.0	15.0
合計	50,882.5	17,385.5	1,190.0	142.0	69,600.0
等級比率	73.1%	25.0%	1.7%	0.2%	100.0%
格落原因	①除青未熟粒		②胴割粒		

作柄・品質概況

5月10日の田植え以降、好天により初期生育は順調に推移され、(指標値に比べ草丈「やや長」)6月中旬からの高温傾向により、生育は早まり、草丈・茎数ともに増加しました。(指標値に比べ草丈「長」、茎数「多」)降水量も少なく(6~7月の降水量平年比60%)、各地で水不足が懸念され、その影響から葉色は淡く、草丈は長いまま推移し、1回目の穂肥施用は遅め控えめな対応となりました。

8月下旬までの1カ月予報では、高温・多照・少雨の見込みだったこと、1回目穂肥が控えめだったこと等から後期栄養不足が予想されたため、2回目の穂肥施用は確実に実施するよう呼び掛けを行いました。

コシヒカリは8月5日頃に出穂期を迎え、8月中旬まで気温の高い日が続いたことから、長期湛水避けるとともに飽水管理を徹底し、高温障害対策に努めました。

1等米比率は10月14日現在、73.1%、コシヒカリでは77.4%という結果となっております。

こしいぶきでは、出穂期(7月22日頃)以降の高温により、背白粒や心白粒など高温障害による玄米品質への影響がありました。

コシヒカリでは、早期の出穂圃場については、こしいぶき同様、高温障害による白穂粒の発生と倒伏の影響で刈遅れによる除青未熟粒、収穫期の2度のフェーン現象による胴割粒の発生が確認されました。

2. 集荷概況

単位：俵 (60kg)

種類	予約数量	集荷実績	集荷率
J A 米 うるち	95,802.5	58,313.0	60.9%
J A 米 酒	2,249.0	1,924.0	85.5%
J A 米 もち	2,171.0	1,886.0	86.9%
一般米うるち	1,765.0	1,438.5	81.5%
一般米酒	-	143.5	0.0%
一般米もち	-	92.0	0.0%
加工米もち	15.0	15.0	100.0%
輸出用米	14,128.5	6,732.0	47.6%
規格外米	-	142.0	0.0%
合計	116,131.0	70,686.0	60.9%

3. カントリーエレベーター受入実績

(生粍・トン)

第1CE(小栗田)	第2CE(山谷)	片貝CE	合計
1,379.7	1,112.9	1,306.7	3,799.3